

第1回食品流通合理化検討会  
会場：都道府県会館402会議室



新潟県

# 新潟県の食品流通の現状と課題

---

令和元年11月11日

新潟県知事 花角 英世

# 食品流通の現状と課題（①米）

- ・ 平野部の産地では大手卸向けにフレコン化が進展
- ・ 中山間地のブランド米は小ロットの荷動きが多く紙袋が中心

## 中山間地JA

- J A集荷率：約5割（全農1割以下）
- フレコン比率：約1割
- ・ 高価格のブランド米産地で小ロットの荷動きとなるため30kg紙袋が主体（貯蔵施設でフレコンから紙袋に詰め替える場合もある）
- ・ J Aによる直接販売の割合が多く、利幅の大きい精米出荷の拡大を志向

## 平野部JA

- J A集荷率約7割（ほぼ全量全農扱い）
- フレコン比率：約5割
- ・ フレコン比率は年々向上（大手卸事業者にはフレコンの方が受けが良く、紙袋の指定はほとんど無い）
- ・ 輸送手配は全農が行うため物流事情に対する問題意識は希薄

- ・ 集荷を物流会社に委託するケースが増えているため集荷段階での手荷役軽減も必須
- ・ 集荷は主に2tトラックを使用（道路事情により車両の大型化が難しい地域あり）

# 食品流通の現状と課題（①米）

- ・ ロットの大きな取引は自ずとフレコンにシフトする見込み
- ・ 紙袋のパレット一貫化は農家から集荷する段階に課題あり

## パレット利用の現状

- ・ J A 出荷時のパレット使用は約10%
- ・ 集荷は2 t 車に5段積み×2枚（35袋）  
出荷時は卸が要求する7段積み（49袋）
- ・ J A 倉庫内はJ A 保有パレットで保管し、  
発送時に物流用パレットに積み替え

## フレコン利用の現状

- ・ 大手卸向けを中心に利用拡大の傾向
- ・ フレコンバックは県内J A で共同利用し、  
回収は物流会社が行う（6回使用）
- ・ 倉庫内はパレット上で保管（積上げ高に  
限度があるため倉庫の容積率が低下）

- ・ 輸送費は産地が負担する（販売価格に含まれる）ため流通経費の増加は農家負担に帰着
- ・ 荷物管理は農産物検査証を目視する形で行われており、電子化には未対応

# 食品流通の現状と課題(①米)

全国的な課題	新潟県の状況
フレコン化 紙袋のパレット一貫化	<ul style="list-style-type: none"> <li>大手卸向けはフレコン化が進展、ブランド米産地は紙袋が主流</li> <li>紙袋の集荷はパレットで行うが、J A 出荷時は全て手積み</li> </ul>
消費地保管（物流拠点整備）	<ul style="list-style-type: none"> <li>産地 J A の倉庫に保管し、発注に応じて出荷。保管料の高い都市部での在庫は避けられる傾向</li> </ul>
共同化・リードタイム緩和による配送効率化	<ul style="list-style-type: none"> <li>ブランド米産地は利幅の大きい産地精米・直送を志向しており、リードタイム短縮のため自社配送も検討</li> </ul>



# 食品流通の現状と課題（①米）

## 想定される対応方向

### 紙袋輸送へのパレット導入の推進 （モデル化と実証）

- ・ J Aパレットと物流パレットの統一（循環サイクルの確立）
- ・ 集荷段階からのパレット一貫化に向けた施設・設備の整備
- ・ 製品情報（農産物検査情報）の電子化とデータ連携

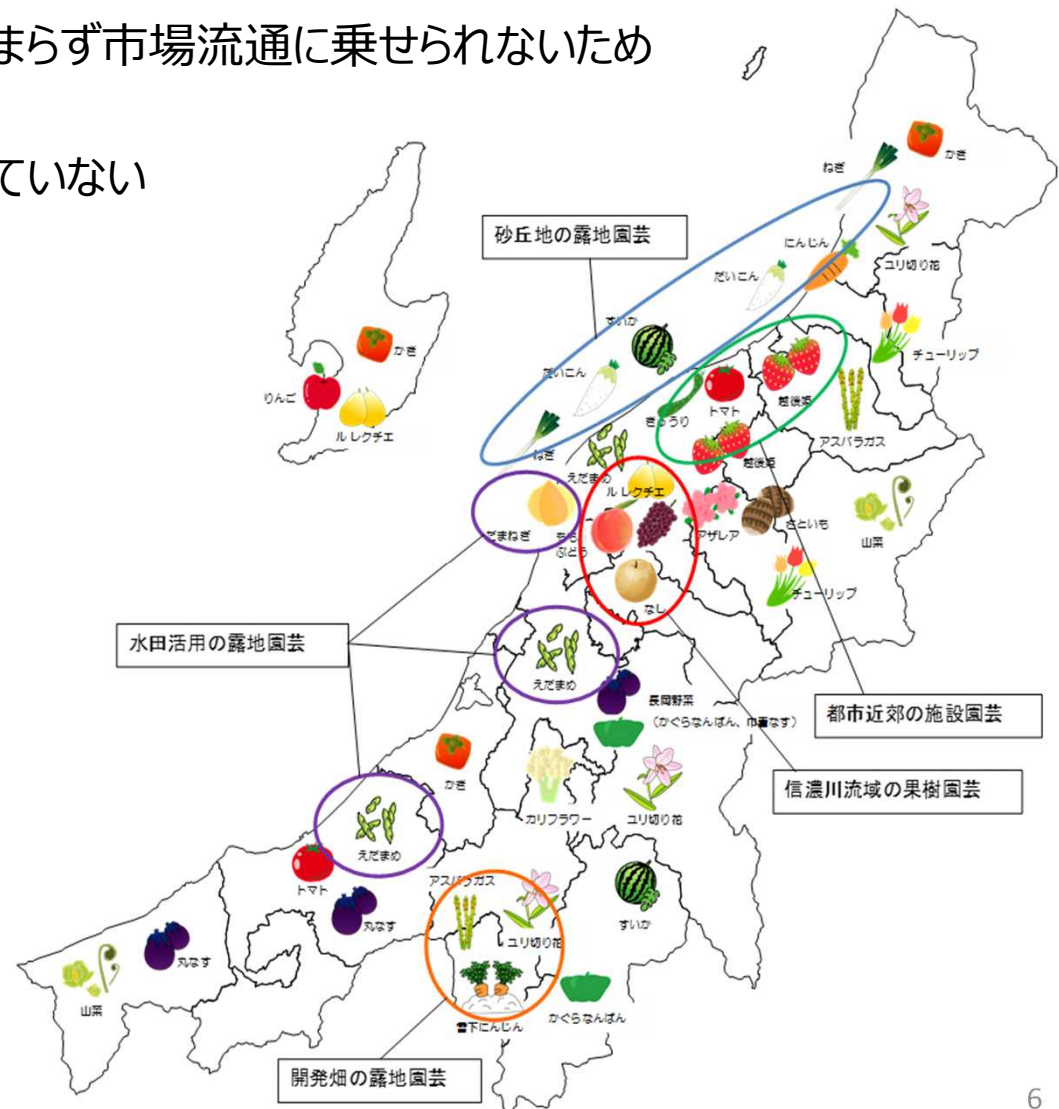
# 食品流通の現状と課題（②青果物）

## 広い県土に小規模産地が散在しているため効率的に輸送できない

- 実需者から引き合いがあっても量がまとまらず市場流通に乗せられないため輸送費が割高となり継続取引が困難
  - 地域内のみで消費され県外に出せていない

【新潟県内の園芸産地の規模】

	産地数 <sup>※1</sup>		特産 <sup>※2</sup>			
	野菜	果樹	花き	特産	特産	特産
10億円以上	1	0	0	0	0	
5～10億円	6	3	1	1	1	
3～5億円	11	2	4	0	0	
1～3億円	33	6	6	0	0	
小計	51 (12%)	11 (20%)	11 (23%)	1 (17%)	0	
1億円未満	363	43	36	5		
計	414	54	47	6		



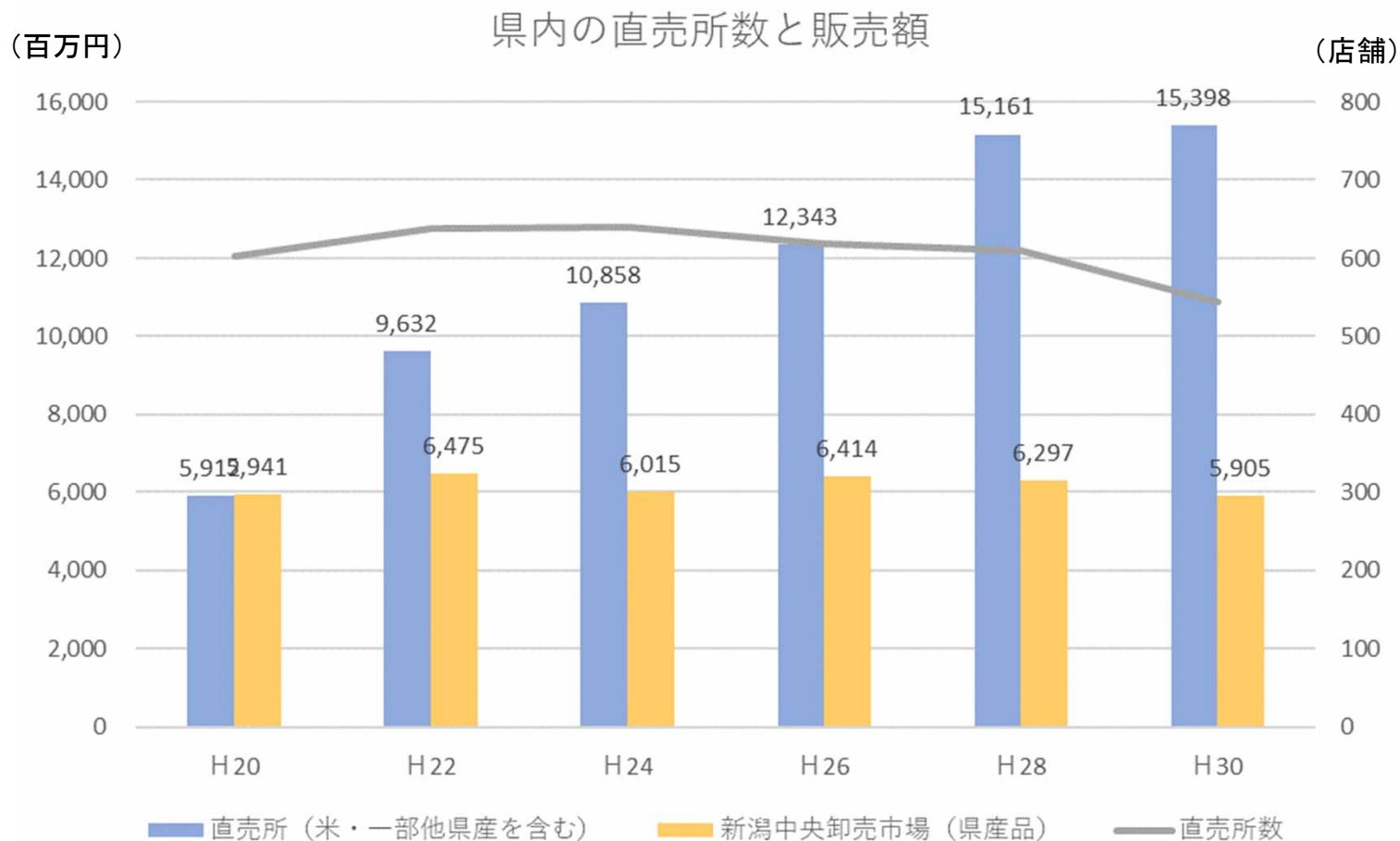
※1 地域園芸振興プランの策定産地数(H30.7 現在)

※2 園芸苗、茶、葉たばこ 等

# 食品流通の現状と課題（②青果物）

## 直売所の利用が拡大しており集積拠点としての機能も期待できる

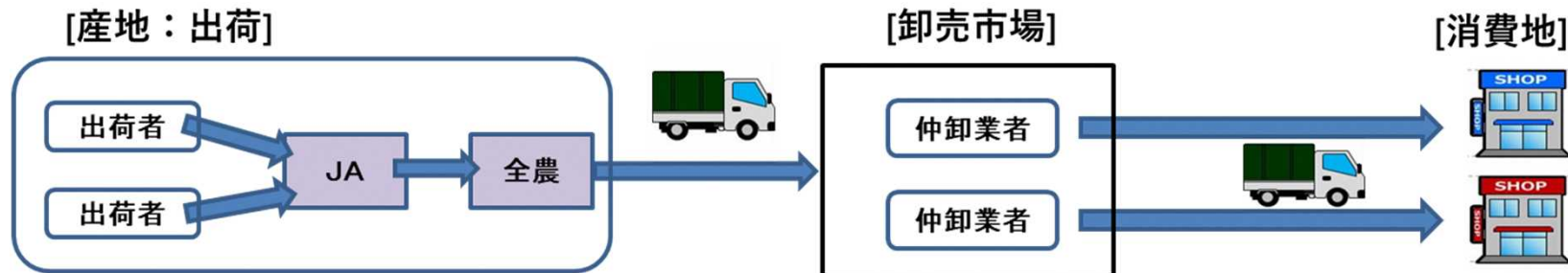
- 市場流通（系統出荷）が伸び悩む一方で、直売所は施設規模の大型化と販売額の増加が続いており、少量多品目の生産物を集約・発送する地域拠点としての利用も期待できる



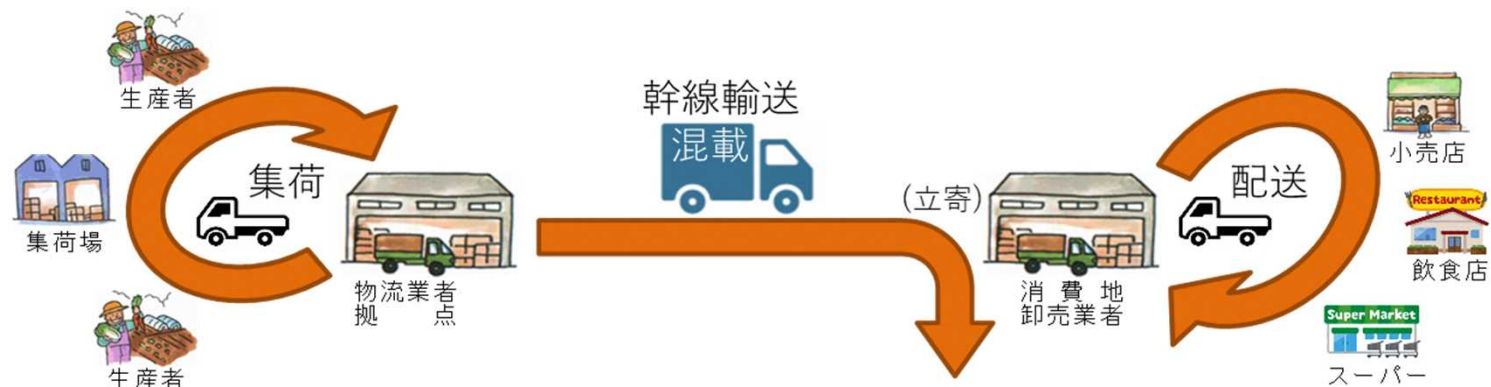
# 食品流通の現状と課題（青果物）

全国的な課題	新潟県の課題
統一規格パレットによる一貫パレチゼーションと商品・物流情報のデータ連携	小規模分散型産地からの効率的集荷と少量多品目生産物の低コスト輸送

## 【一般的な青果物流通】



## 【少量多品目の集荷・混載事例】





# 食品流通の現状と課題（②青果物）

## 想定される対応方向

### 小規模分散型産地の効率的集荷システムの確立 （モデル化と実証）

- ・ 地域集積拠点の設定と広域物流拠点までの集配送ルート確立
- ・ 物流資源の開拓と共同利用による幹線輸送の低コスト化
- ・ 「雪室」の活用による長期貯蔵と高付加価値化

# 食品流通の現状と課題（③地域内配送）

## 需要密度の低い地方部や小規模食品加工業者における地域内の配送（ラストワンマイル）問題が深刻化

### 【青果物】

- ・ 八百屋の廃業が相次いでおり、毛細血管のような地域の配送網や下処理（トウモロコシの皮剥ぎ、きぬさやの筋取り等）の機能が失われつつある

### 【加工食品】

- ・ 同じ施設への配送が事業者ごとに別々に行われている一方で、納入指定時間やコースが合わず取引を断念するケースがある
- ・ 通い容器の規格が出荷先ごとに異なり、紛失も多い
- ・ 紙やFAXなどによる取引が中心で前近代的な商習慣が残っている
- ・ 季節によって商品展開が異なるうえ、商品ごとに物流頻度や量が異なる

### 【量販店対応】

- ・ 物流センターに納入すると手数料がかかり、集荷を依頼するとさらに物流費を請求されるため、小さい事業者ほど割に合わない

# 食品流通の現状と課題（③地域内配送）

## 想定される対応方向

### 地方卸売市場を核とした共同配送システムの確立 （モデル化と実証）

- ・ 業種の垣根を超えた地域全体の効率性を高める配送網の確立
- ・ 流通加工機能の拡大による地方卸売市場の拠点性の向上
- ・ I Cタグ付きコンテナによる一貫流通体系の確立と商品データの連携